



Newsletter

三井ボランティアネットワーク事業団 Mitsui Volunteer Network Center



新年度のご挨拶

三井ボランティアネットワーク事業団 理事長 浜本 渉

日頃は、三井ボランティアネットワーク事業団(三井V-Net)の活動に、多大なるご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。今年度のニュースレターをお届けするにあたり、一言ご挨拶申し上げます。



三井V-Netは、高齢化社会の到来を見据え高齢者が積極的に社会活動に参加し、豊かで健康な生き甲斐を感じられる場を提供することを目的として、三井グループ各社のご尽力により1996年に設立されました。シニア層の生き甲斐づくり支援を趣旨に設立された本事業団は、三井グループ全体の社会貢献活動へ発展、進化を遂げ、今年で29周年を迎えます。

三井グループ企業19社の運営会員会社によるご支援ご協力のもと、三井グループ企業出身のシニア層を中心に、一般の方々にも多数ご登録いただき、ボランティア会員登録数は、約1500名(2025年1月)となっています。

新型コロナウイルス感染症で大きく減少したボランティア活動は、医療を除き本格的に再開、活性化し、活動分野である①国際交流、②環境保全、③医療・福祉、④文化・教育、⑤スポーツの5分野において、活動をされた会員の年間延べ人数は、約6,000名まで回復してまいりました。活動関係先から、会員皆さまのご支援ご協力に、感謝と高い評価をいただいています。

国際交流では、メインの活動である会員と留学生との一対一交流が本格的に再開しました。会員の方々による留学生を交えた交流イベントは各大学で活性化しています。東京大学柏キャンパスでの英語落語鑑賞会、横浜国立大学の着物正装体験会、駒澤大学の世田谷ウォーキング、千葉大学の首都圏外郭放水路見学、神戸大学では、「兵庫国際交流会館における国際交流拠点推進事業(G-Navi)」との連携による企業訪問や社会見学、同志社大学での茶道体験会など、留学生の視野を広げる活動を推進しています。

また、日本の古典芸能である、能・狂言、歌舞伎、文楽の鑑賞会や、日本の古民家見学会にも多くの留学生が参加しています。

福祉では、児童養護施設エリザベス・サンダース・ホーム(神奈川県大磯町)において、昨年11月に、第14回チャリ

ティーコンサートを5年振りに開催しました。多くの皆さまのご支援ご協力によりチケットも完売となり、収益金を同ホームに寄付させていただきました。

公益財団法人日本チャリティ協会が主催する各イベントの支援要請にも、会員の方々にご支援ご協力をいただいております。また、会員をはじめ皆さまからご提供いただいた未使用の切手・はがきにつきましては、公益財団法人国際センターのダルニー奨学金を通じて、メコン地域の経済的に恵まれない家庭に生まれ育った若者の中学校就学支援にあてられています。

文化・教育では旧三井家下鴨別邸(京都府)、司馬遼太郎記念館・キッズプラザ大阪(大阪府)などの文化施設で受付・ご案内などに多くの会員の方々が活躍されています。

環境保全では、本事業団の代表的な活動先である広島平和記念公園(広島県)で毎月清掃を継続しています。須磨海岸(兵庫県)、二色の浜(大阪府)などの清掃活動も定期的に行っています。

スポーツでは、マラソン大会の給水や視覚障がい者ランニング伴走支援、障がい者卓球支援などパラスポーツも含め積極的に活動を行っています。

このように本事業団が各分野で活動を再開、継続できているのも、会員の皆さまのご活躍によるところですが、一方で、かねてよりの課題として、企業における定年・雇用延長などにともない会員の高齢化が進んでいます。ボランティア活動継続のため、新規ボランティア会員の拡大は喫緊の課題です。今年度も会員の拡大に向け、ニュースレターやホームページの活用、運営会員会社をはじめとする三井グループ各社の現役社員やOB・OG会への広報活動等を通じて、本事業団の認知度アップを図ってまいります。

新規に入会を検討される選択肢を広げるため、既存の活動分野に加えて新たな活動への取組みの検討も、引き続き運営委員の皆さまや会員の皆さまと議論を深めてまいります。

また、本事業団のもう一つの課題である、運営会員会社の拡大につきましても、関係各社への働きかけを継続してまいります。

本事業団といたしましては、今後ともボランティア活動を通じて三井グループが実践する社会貢献活動の一翼を担えるよう積極的に活動してまいります。引き続き三井グループ各社の皆さま、運営会員会社、会員の皆さまのご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

会員募集

三井ボランティアネットワーク事業団は、新規会員を募集しております。

- ▶ 三井ボランティアネットワーク事業団ホームページより、お申し込みください。
- ▶ 詳しくは最終ページをご覧ください。

会費は無料です

英語落語はおもしろい ～英語落語鑑賞会～

東大柏部会 平出 公平(三井住友銀行OB)



禁酒番屋 (大助さん)

11月7日、雲一つない秋空のもと、三井V-Net 東大柏部会主催の英語落語鑑賞会が東大柏キャンパス図書館メディアホールで開催されました。昨年はコロナ明けのため70名の参加でしたが、今年は24カ国、総勢101名の参加を得て、大盛会となりました。

演者は例年通り東京英語落語かい枝会の皆さんです。素人とは思えない流暢な(もちろん英語の)話しぶりもさることながら仕事も玄人はだしなのには驚きました。お菊の幽霊など、思わずぞくぞくとする臨場感がありました。

事後アンケートでは、「言葉の壁を超えたユーモア、すごいです!!」「落語と聞いてもっと古典的なものを想像していましたが、現代の要素を盛り込んでいたのが興味深かったです」等のご感想をいただき、大好評でした。殆どの方が最後まで聞き入っておられました。

落語は単なるトークショーとは違う、江戸時代からの日本独特の芸能です。また、庶民視線の話題が多く、生の日本を知っていただくには格好の素材です。これを機会に落語ファンの留学生をひとりでも多く増やすことができれば、文化交流の一助となることが期待されます。



皆さんそろって記念撮影

留学生のための着物正装体験

横浜国大部会 佐々木 隆雄(日本製鋼所OB)

振り返れば、2008年4月に横浜国大部会に登録してすぐに1年未満の短期留学生との一対一交流を始めました。

5年位経った頃から交換留学生のような短期留学生に加えて、2～3年滞在する修士以上の留学生の交流希望者が増えてきました。そこで留学生の関心も高い「インドアイベントの活動も増やして交流の活性化につなげよう」との案がまとまり、その一つがこの「着物正装体験」でした。

意思ある所に道あり。検討を開始したところで、国際交流部門があり、着付け教室をも完備している公益財団法人服飾文化研究会(横浜)からアプローチがあり、一気に会場、講師、経費の面も解決できました。年1回開催で1回目を2016年12月初めに実施、2回目からは11月23日の祝日と決め、コロナ禍で中断するも今回の2024年11月23日が、6回目の開催となりました。

天候は、集合場所である地下鉄伊勢佐木長者町駅に11時30分に集まる頃には天気予報通り晴れ間が大きくなって私達を喜ばせてくれました。参加人数は女性12名、男性14



壮観な男性陣

名+4歳の男の子計27名、服飾文化研究会の男女別々の教室で振袖の正装着付けが12時頃から始まりました。

女性の場合、着る着物は事前に申告した身長等を勘案して講師の方々が選んでいるため、全員が好みの色、柄を自分で選ばせませんでした。それでも帯を付けて簪を髪に飾り、鏡で自分の姿をみて「私に合っている」と喜んでくれました。男性は紋付羽織&袴の正装です。色も黒、灰色のみで羽織の縛り紐だけが白、着てみると質実剛健の言葉が浮かんできます。背の高い留学生などは颯爽剛健という感じです。

そして、近くの厳島神社まで散歩(デモンストレーションの雰囲気もあり)、絶好の写真スポットです。また教室に戻り、筆頭講師から着物の歴史、着物の色柄、着物の作り方等についての講話があり、16時少し前に解散となりました。



横浜羽衣町厳島神社にて



留学生のための 就職活動支援ワークショップ(2024年度)

千葉大部会 真期 大輔(三井住友海上火災保険OB)

留学生の就活支援を主目的としたワークショップを11月12日(火)・19日(火)の2日間にわたり開催、三井V-Net会員延べ12名、留学生延べ12名が参加しました。

1. 第一回目【11月12日(火)】

- 「日本企業が求める留学生と就職活動のポイント」
～正木進氏(三井化学OB)
- 日本企業について(勤務経験に基づいて)
～張琦氏(千葉大OG)
- ワークショップ

*正木氏から日本の就活事情についての一般的な説明を行い、張琦氏からは留学生が日本企業への就活を行う場合の心構えや注意点などについて、自らの実体験を踏まえながら留学生ならではの視点から解説いただきました。その後、留学生が文系と理系に分かれて三井V-Netメンバーとの質疑応答を実施しました。就活に有効な資格やインターンシップ、面接を受ける際のポイントなど多数の質問が寄せられ、留学生の関心の高さが伺えました。

2. 第二回目【11月19日(火)】

- 「私の会社勤めをふりかえって～「三井住友海上」での経験」～真期大輔氏(三井住友海上OB)
- ワークショップ
- *真期氏が三井住友海上の会社案内および就活をする際のポイントについて、具体的な説明を行いました。その後、一回目と同様に留学生と三井V-Netメンバーとの質疑応答を実施しました。

3. ワークショップを終えて

参加者からは、母国での就職ではなく日本へ留学した経験を活かして日本企業へ就職したいという熱意を感じると同時に情報が少ないことへの不安も見受けられました。三井V-Netとして、日本での就職を希望する留学生を少しでも支援できる場所を提供できたことは大変有意義だったと感じました。



参加者の皆さん

紅葉狩り・世田谷ウォーキング実施報告

駒澤大学部会 石畠 康充(三井物産OB)

駒澤大学部会では、毎年、「紅葉狩り」と称して留学生に日本の秋を体感してもらうイベントを行っています。昨年は残暑が長く続き、木々の葉が色づく時期も遅れ気味で、開催までやきもきしましたが、2024年12月7日(土)に紅葉見物を中心とした世田谷区内の散策を実施、前回同様、留学生9名、会員7名、合計16名の参加となりました。



等々力不動尊での留学生集合写真

幸い天候には恵まれ大学正門近くからバスに乗り、東京23区内では唯一の渓谷である等々力渓谷に向かいました。等々力渓谷公園内の遊歩道は、一昨年7月初めに倒木が発生したために、残念ながら現在歩くことはできませんが、立入ることのできる等々力不動尊で紅葉を愛で、不動の滝のそばにある甘味処で留学生には「くずきり」を味わってもらいました。その後、電車で二駅移動し、浄真寺を訪れました。このお寺は9軀(9品)の阿弥陀如来像を安置していることから「九品仏」として知られています。阿弥陀如来像は近年傷みが目立つようになったことから2014年から20年をかけて1体ずつ京都で修理されていますが、昨年は不在であった下品下生像が修理を終えて安置されており今年は見学することができました。このお寺には東京都の天然記念物に指定されている大イチョウがあり、見事な黄葉を見ることができました。今回の世田谷ウォーキングで、留学生は赤や黄色に色づいた木々の葉を見学し東京都内でも紅葉狩りの気分を味わってもらえたことと思います。

その後、九品仏川緑道を歩き、自由が丘駅で解散しました。



九品仏浄真寺の九品堂を見学中



エリザベス・サンダース・ホーム 第14回チャリティーコンサート開催

本部事務局

2024年11月23日(祝日)、三井V-Net主催の児童養護施設エリザベス・サンダース・ホーム(以下ESH)第14回チャリティーコンサートを、聖ステパノ学園のご厚意により「海の見えるホール」(神奈川県大磯町)にて、5年ぶりに開催しました。

200席のチケットも、本事業団会員で構成する湘南倶楽部の皆さま、演奏者の皆さま、大磯町近隣にお住いの皆さま、そして本事業団の運営会員企業の皆さまなど、多くの方たちにご尽力いただき完売となりました。

演奏会当日は天候に恵まれ、美しく輝く相模湾が見えるコンサート会場で、司会の本事業団会員である高田様による開演宣言の後、コンサート主催者を代表して理事長の浜本が挨拶し、本事業団が同ホームのボランティア活動に参加し、今年で25周年を迎えたことにふれ、さまざまな形でご支援ご協力いただいている皆さまのお力添えあつてのことと、深くお礼を述べました。さらに、コンサート開催にご尽力いただいた演奏者など関係者の皆さまにも、心よりの謝意を示しました。

演奏は、主奏者でサクソ奏者小林洋平様、ピアノ持山翔子様と7名のストリングスメンバーで、小林様が20数年前に作曲した「I'll be there」から始まり、数多くの名曲や持山様のピアノソロも披露されました。



海の見えるホールでのコンサートの様子

最後の曲は、東日本大震災で津波に耐えた岩手県陸前高田の奇跡の一本松に、想いをはせて小林様が作曲した「いちばん大きな空へ～樹が話してくれたこと」でした。いずれも素晴らしい演奏で多くの方たちがその音色に酔いしました。

ESHの児童から演奏者へ感謝の花束を贈呈した後、コンサートの収益金を目録として本事業団理事長の浜本よりESH行武理事長に贈呈。ESH行武理事長よりお礼のご挨拶を賜り、コンサートは終演となりました。

コンサートにご支援ご協力いただきました、全ての皆さまに心より感謝申し上げます。



両理事長と演奏者の皆さま

関西支部

神戸市役所から旧居留地を歩こう会 同行記

島田 佳一郎 (三井住友海上火災保険 OB)

79歳で仕事を終了し、大阪市立大学(現大阪公立大学)大学院入学試験に孫のような若者と受験し、無事合格、平成30年に前期博士課程を修了、修士号を取得できました。その後も教授に勧められ、ドイツ法特講(阪大、大工大、京大の大学院生との共同授業)を受講しています。そこには中国の留学生も3人参加され、留学生には興味があり、今回のイベントに参加しました。



筆者

神戸市三宮にあるサンキタ広場の集合場所では、ほとんどの留学生と簡単なあいさつをかわしました。その中にドイツ人の留学生、メアレ・シュアマンさんがおられました。私が「Ich heisse Kaichiro Shimada. Ich komme aus Kyoto」などと自己紹介をしたら、まさかドイツ語で話しかけられるとは思っておられず彼女は驚いた顔をしていました。各所で留学生と楽しく会話ができて最高の一日を過ごしました。

別れ際にメアレさんに、メールアドレスを渡しましたところ、次の日に日本語とドイツ語、英語でのメールが届き、私はまずドイツ語で返信しました。

「I hope this e-mail finds you well. I was a great pleasure meeting you today. Vielen Dank! (今日はお会いできてとてもうれしかったです。ありがとう)」 「Der gestern Studentenaustausch hat viel Spass gemacht. (昨日の学生交流はとても楽しかったです)」以上、彼女と私の返信メールの一部です。このような楽しい機会を計画していただいた皆さまに感謝しています。



参加者一同

大阪大学留学生と歴史文化探訪

加藤 裕之 (BIPROGY OB)

留学生との交流はどうかと三井V-Netからの紹介があり、大阪大学大学院の中国人女性と交流をはじめました。

彼女は大学を岡山で過ごしたそうで、こちらも実家が岡山なのでほぼ毎月岡山には行っているという共通点を見つけまし

た。さらに、歴史と文化に興味旺盛で彼女は中国、こちらは日本、双方の知識交換が絶好のテーマになりました。

彼女の出身である山東省

徳州は、孔子、諸葛孔明、王羲之などの英雄・傑物を生んでおり、かの有名な泰山のふもと近くです。日本については、おおむね月に一度、関西の歴史文化探訪を提案します。

まずは大阪文化をと天神橋筋歩きと天満宮にお参りし、上方落語の寄席天満天神繁昌亭にて関西弁を体験。通常の日常日本語会話は全く問題ない彼女ですが、さすがに落語はきつかったようです。

次から京都、一般的な観光スポットに加え勉強にもなるところです。この回から京都在住の友人女性加わります。女性同士ということと、この友人は大変京都・奈良に詳しく歴史的には平安時代に強い方です。

京都嵯峨野の散策、定番観光と文化と歴史の体験コースです。嵐山から天龍寺、竹林、野宮神社、常寂光寺、落柿舎では俳句を詠んで投稿、清涼寺、大覚寺と大変充実した1日でした。

こういった人を案内することを通じて自分の知識も深めることができ、いい機会を得られていると実感しました。



中央 筆者

旧三井家下鴨別邸見学と茶道体験

楠居 里奈(登録会員)



旧三井家下鴨別邸内を案内する筆者(右側)

2024年6月22日(日)、4年ぶりに旧三井家下鴨別邸にて、同志社大学の留学生が、伝統的な建物の見学、茶道体験、そして、三井V-Netの会員と交流するイベントが開催されました。

留学生たちは、歴史的な建物の見学の中で、建物の歴史、建築様式等について説明を受けていましたが、日常ではあまりなじみのない言葉ばかりだったので、ちょっと難しいようでした。ただ、外から見る角度で建物の階層が違ったり、こまごまとした建具、装飾の意味について知ったりすることをとても楽しんでいるようでした。

また、茶道体験では、茶道裏千家淡交会の栗山先生にお越しいただき、留学生たちに茶道をレクチャーしていただきました。中には、茶道を習っている留学生もおり、茶道の体験後、先生に質問し、いろいろな知識を吸収しようと思っている留学生もいて、日本を好きで来てくれている留学生がこれだけいるのは本当にうれしいことだな、と思いました。

短い間の交流でしたが、留学生たちはボランティアとの交流と文化体験をとても楽しんでくれて、満足そうに帰って行きました。私も、そんな留学生たちの姿をみられて、とても楽しい一日となりました。



旧三井家下鴨別邸にて

大阪歴史博物館でのボランティア活動

桑村 和男(東芝OB)

新型コロナ禍の中、休止していましたが大阪歴史博物館のボランティア活動が、令和6年4月から新しくスタートしています。私は、子供時代から歴史が好きだったので、「難波宮遺跡ガイドサポーター」を担当しています。

7世紀、孝徳天皇が行なわれた「大化の改新」の時、都を飛鳥から大阪に移されて、「難波長柄杓宮」(前期難波宮)が造営されました。大阪歴史博物館の地下には、発掘調査で発見された前期難波宮の関連施設「内裏西方官衙」の建物遺跡が保存されています。

ガイドサポーターの流れは、1階の難波宮遺跡見学窓口で受付対応をして、その地下の遺跡を来館者に見学していただきます。午後2時と午後3時の2回見学ガイドを行います。見学ガイドは約20分かけて、難波宮の歴史の紹介、地上での遺跡の配置の説明、そして、階段を降りて地下の遺跡に案内しています。地下の遺跡は、7世紀の地層が発掘時のままで保存され、高床式倉庫の柱穴跡を示す行燈が点灯された空間が広がっています。毎回、見学者から、「大阪に都があったこと知らなかった」「大阪の街の真ん中で、7世紀の遺跡が見られて感激しました」との感想を聞き、私たちがガイドのやりがいがあります。

大阪歴史博物館は、大阪城の近くであり、ぜひ皆さん来ていただいて、7世紀の難波宮関連施設の地下遺跡を見学してください。



地下遺跡前での筆者

2024 二色の浜ビーチクリーンアップのボランティア活動に参加して

鈴木 淳詞(新日本空調 現役)

前日まで雨が降り開催が危ぶまれていましたが、30名を超える参加者の皆さんの日頃の行いが良く、当日はまだまだ夏を感じさせるくらいのお天気となりました。



向かって左側 筆者

我々新日本空調は昨年に続き2回目の参加でしたが50代のおじさんが2名だけで、若手の社員さんやご家族で参加されている会社さんは本当に素晴らしいと感じました。

この二色の浜公園の海岸は、前回同様とてもきれいでごみが少ないと思いましたが、それもそのはず、今年5月に『ブルーフラッグ』という日本国内ではわずか12か所しかない「きれいで安全で誰もが楽しめる優しいビーチ」の認証を受けており、世界で最も歴史ある環境認証機関の厳しい基準を達成している非常に美しい場所なのです。

この日も海岸に腰をおろし、海の上を関空から淡路島の方に飛んでいく飛行機や、トンボを眺め波の音に癒されながら優雅な時間を過ごす方々が何組もいました。

ただそれでも、花火の残骸やたばこの吸い殻が多く目につき、マナーの悪い人がいることを痛感します。この清掃活動に参加された方は、今後決してごみのポイ捨てはしないとします。

私は、ボランティア活動は他人のためだけでなく、自分が日々周囲の人に助けてもらっている事に対して、自分ができる事を自分のためにやろうという気持ちで参加しています。

そして清掃活動は、健康的で心身共にリフレッシュできるとも楽しいイベントですので、皆さんも是非参加してください！



二色の浜にて参加者の皆さん

マラソンボランティア 三都物語

関西支部事務局

2024年2月18日、京都マラソン2024のボランティアに団体ボランティアとして初めて参加しました。参加者募集の際、団体登録に必要な人数(6名以上)が集まるか心配していましたが、募集開始から2日間で12名の応募があり、皆さんの意識の高さを実感しました。



京都マラソンボランティア

関西支部として、2013年から大阪マラソン、2014年から神戸マラソンにボランティアとして参加しており、今回の京都マラソンを経て、ついに「マラソンボランティア三都物語」となりました。今後も、これらの素晴らしい大会に貢献し、ランナーの皆さんをサポートし続けたいと思っています。



大阪マラソンボランティア



神戸マラソンボランティア

中国支部

広島ランニングパートナーズの思い出

竹田 裕彦 (BIPROGY OB)



大杉さん(左から2人目)と伴走者の竹田さん(右端)

広島での12年間の単身赴任を終え、東京の自宅に戻ってから早7カ月が経ちました。ランニングは続けており、今朝も東京で新たに入部した「隅田川ランニングクラブ」の20キロタイムトライアルに参加し、しっかり汗を流してきました。

広島ランパ(注)の皆さん、お元気ですか？ 竹田は「サブ3.5」を目指して、しぶとく走り続けていますよ。目を閉じると、笑顔でランニングを

楽しむ皆さんの姿がすぐに思い浮かびます。

さて、広島での一番の思い出といえば、2024年3月20日(春分の日)に行われた「第4回福富ダムフェスタ」への参加です。ランパの会長であり、「鉄人ランナー」として知られる大杉勝則さんのご指名を受け、21キロのハーフマラソンで伴走を務めさせていただきました。

大杉さんについてはご存じの方も多いかと思いますが、彼は身体のハンディを感じさせない圧倒的なスピードを誇る「鉄人ランナー」です。昨年の「24時間テレビ 愛は地球を救う」で一緒させていただいてから、さらに親交が深まりました。

その大杉さんの伴走者として挑んだ福富ダムフェスタでしたが、当日は天候が急変し、まさに春の嵐に見舞われました。小雨がやがて本降りとなり、さらにはみぞれ、そしてスタートの9時には吹雪に！

レース中止かと思いきや、山間部のダムを周回するこの大会は決行されました。全身を容赦なく濡らす氷水、坂道の流れ落ちてくる水がシューズに染み込み、次第に脚の感覚も失われる冷たさでした。ついには低体温症で救急車で運ばれる

ランナーも現れるほどの過酷な状況でした。

それでも、大杉さんは小さな輪っかで私と繋がりながら、ひたすらゴールを目指しました。ギブアップはない……大杉さんにはそうした強い意志が備わっているのです。ボランティアの皆さんの声援に支えられ、なんとか2時間21分で完走することができました。

広島での最後のランとなったこの福富ダムマラソンは、一生忘れられない思い出です。

大杉さん、諦めずに走り続けるその姿は、いつまでも私の憧れです。そして、約束した皇居ラン、必ず実現させましょうね!

(注) 広島ランニングパートナーズ(略称:広島ランパ)

広島ランパは、代表の大杉勝則さんが立ち上げた、ブラインドランナーとその伴走者のランニングクラブです。大杉さん自身も盲ろう者でありながら精力的に活動されており、月に一度、広島港前の広島みなと公園でランニング練習会を開催しています。



伴奏中の筆者(手前)

前に、2024年9月23日(日)に東広島市の広島県立リハビリテーションセンタースポーツ交流センター「おりづる」で行われた車椅子ソフトボール体験会に参加しました。

昨年の第1回では体験会に参加する機会がなく、今回こそは是非と思い、今回申し込みました。

体験会は、主催のNPO法人FOOT&WORK(注1)の下原理事長と車椅子ソフトボール協会(注2)の高山樹里会長による挨拶で幕を開けました。その後、協会副会長から車椅子の構造の違いや障害に応じてのクラス(持ち点:ゲームに参加選手の持ち点合計が21点以下)、ルール(試合、守備、投球)について丁寧な説明があり、いよいよ実技体験が始まりました。

まずは、車椅子を操りながら体育館内を走り回り、車椅子に乗ったままキャッチボールを体験。その後、守備練習では打球をキャッチして投げ返し、打撃練習では日本代表の江南選手が投げるボールを打ち返すという貴重な体験ができました。日本代表選手の投球を打つ機会を得たことは、とても幸運で感激しました。

体験会は約2時間30分にわたる内容でしたが、車椅子ならではの動きや、競技の奥深さを肌で感じることができ、非常に楽しく充実した時間となりました。

車椅子ソフトボールが教えてくれたもの

車椅子ソフトボールを通じて、障がい者と健常者、ジェンダーや年齢の壁を超え、誰もが同じフィールドで共に楽しむことの素晴らしさを実感しました。競技を通して人と人とのつながりが生まれ、共感や理解が深まることで、多様性を尊重することの大切さに改めて気付かされました。このような体験は、単にスポーツの枠を超えた貴重な学びの場となります。

日本代表とパラリンピックへの期待

日本の車椅子ソフトボール代表チームは、世界大会で優勝する実力を持っています。2028年のロスパラリンピックでの正式種目入りを目指しています。この素晴らしい競技が早期にパラリンピック正式種目として採用されるよう、多くの方に応援していただければと思います。



ゲーム前

(注1) NPO法人FOOT&WORK

広島「安芸地区」を拠点に、地域コミュニティの向上や生活環境の改善を目指して活動する特定非営利活動法人。

(注2) 日本車椅子ソフトボール協会

日本国内の車椅子ソフトボール競技を統括する団体で、障がいの有無、性別、年齢、国籍を問わず、誰もが希望を持てる明るい社会の実現を目指して普及活動を行っています。

私のボランティア活動

木村 晃子 (登録会員)



筆者 木村さん(中央)

今年は天皇盃第29回全国都道府県対抗男子駅伝競走大会、広島平和記念公園清掃活動、広島オペラアンサンブル(カルメン)での活動に参加しました。こういった活動に参加するようになり約2年となります。

最初は経験のない私が参加することでかえって皆さまのお手を煩わせてしまうのでは?足を引っ張ってしまうのでは?と不安を感じながらの参加でした。

ですが、「これなら私でもできそう」「これは興味ある、面白そうだなあ」と思える活動から始めることができ、今では活動に参加することがとても楽しみです。

活動を終えた後の達成感や人との繋がり、経験は何ものにも代えることのできない素晴らしいものであり、こういった活動に参加できる場を提供してもらえることに深く感謝しております。

これからも少しずつ活動の幅を広げて参加したことのない活動にも積極的に参加しようと思っています。

車椅子ソフトボール体験会に参加して

中国支部事務局

2024年10月26日(土)・27日(日)に開催の「第2回車椅子ソフトボール&フレンドリーマッチ in Hiroshima 2024」を



体験会が終わって



事務局 便り

2024年度「三井 V-Net」名義による ダルニー奨学金への支援報告

事務局

日頃より日本郵政製書き損じはがきおよび未使用切手のご提供につきましては、多くの皆さまよりご協力をいただきまして、心より感謝申し上げます。

2023年中にお預かりした上記品々の換金額に前年度繰越金を合わせた総額は前回を上回る118,301円となり、新たに奨学金8口を、タイの中学生2名の入学から卒業までの3年度分および2名の単年度分として提供することができました。

現地の生徒に代わりまして皆さまからの温かいお気持ちに厚く御礼申し上げます。

三井 V-Netは設立当初より公益財団法人国際センターにて展開している国際教育里親型支援「ダルニー奨学金」を介して経済的に貧しく教育を受け続けることが困難なメコン

地域の中学生の就学支援を続けてきました。2024年は当該地域への台風被害が甚大であり、被災した子供たちへの更なる支援が必要となっています。一方、一昨年につづき昨年も10月より物品の換金手数料が値上げとなり、奨学金1口(1年度に必要な14,400円)を確保するためにはさらに多くの書き損じはがきや未使用切手の収集が必要となっています。

この活動を継続するためにも、会員の皆さま、運営会員会社の部署単位やOB・OG会の皆さまそしてその他多くの一般の皆さまにも引き続きなお一層のご協力を心よりお願い申し上げます。



皆さまからの最終学年(単年度)分のご支援により2024年度に卒業した生徒

物品ご提供による支援のお願い

三井 V-Netでは右記の物品を随時収集しております。

ご提供いただいた品々は年末に一年分をとりまとめ協力団体を経て換金し、東南アジア僻地の子供たちの中学就学のほか、インド・インドネシアでの持続可能な農業や農村開発のプロジェクトへの支援金として

役立てております。

支援金のもととなる物品につきましては、ボランティア会員様に限らず広く一般の皆様からのご提供もたいへんありがたく、お知り合いにもぜひお声がけ願います。

ご協力を心よりお待ちしております。

● ご提供いただきたい物品

- 日本郵便製未使用(書き損じ含む)はがき
- 日本郵便製未使用切手(海外切手は不可)
- 使用済み切手(周囲を5mm程度残して切り取り、国内/海外 分別願います)
- プリペイドカード(未使用のみ)

- **ご提供品送付先** 三井ボランティアネットワーク 事業団の本部もしくは各支部あて (本ページ下の住所、電話番号をご覧ください)

編集責任者：鎌川 晃一

皆さまもボランティア活動に 参加しませんか



三井ボランティアネットワーク事業団は、三井グループ有志各社の協力を得て、1996年に設立されました。

主として三井グループ企業出身のシニア層のボランティア活動を推進し、豊かで健康な生きがいを感じられるように支援を行い、三井グループ全体の社会貢献とすることを主な目的としています。ボランティア活動会員登録には入会金および年会費等は不要です。

参加いただけるボランティア活動

詳しくは三井 V-Net ホームページをご覧ください。

入会ご希望の方もホームページ

(<https://www.mv-net.com/>)より

ご登録をお願いいたします。



三井ボランティア

検索



三井ボランティア
ネットワーク
事業団

本部(東京)
〒107-0052
東京都港区赤坂3-11-3
赤坂中川ビル3階
TEL:03-5570-2181
FAX:03-5570-8035

関西支部(大阪)
〒556-0011
大阪市浪速区難波中1-12-5
難波室町ビル3階
TEL:06-4396-8680
FAX:06-4396-8681

中国支部(広島)
〒730-0017
広島市中区鉄砲町6-7
中川ビル5階
TEL:082-222-5101
FAX:082-222-5101